

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(潟上市)

1 市の概要(人口 31,902 人)

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	1 園	4 園	1 か所	0 園	0 園	6 校

その他:小規模保育所2 事業所内保育施設1 認可外保育施設4

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各園の形態や地域性をいかした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援のあり方についての検討と指導体制の構築が必要である。
- (2) 市幼保小連携事業において情報交換と子ども同士の交流は年数回行われているが、就学に向けての具体的な取組には差が見られる。
- (3) 就学前施設と小学校の職員双方の「小学校への円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

令和元年度以前は、市に運営相談員を配置し各園の保育指導にあたっていたが、本補助事業を受け市全体の課題の解決に向けて園種を超えて学び合う体制の構築に努めてきたことで、園全体で保育改善に努めようとする意識の変容が見られるようになってきた。

また、県との連携により本市アドバイザーの育成支援が図られたことで、各園への適切な指導につながった。今後は、教育課程の編成により深く関わり、小学校への円滑な接続に向けた事業の推進に努め、市全体の幼児教育の質の向上を図る。

主な内容(3年間)

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
教育委員会教育総務課へ幼児教育アドバイザーを配置。福祉保健部子育て応援課と連携し、円滑な就学に向けた事業を実施する。
- (2) 幼児教育アドバイザーによる園の支援
市内各就学前施設への巡回訪問と要請訪問による指導と保育者との個別面談による課題の把握と解決のための支援を行う。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
各施設の課題に対する研修と研修リーダーの育成、公開保育研究会を実施し広域的に学び合う体制を構築する。
- (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実
各小学校区での相互職場体験、情報交換、合同研修会を実施する。指導計画やスタートカリキュラムの改善を図る。
- (5) 県との連携体制の確保
就学前教育推進協議会及び教育保育アドバイザー連絡協議会への参加と市幼児教育アドバイザー育成のための県指導主事及び県教育・保育アドバイザーの訪問による指導の支援。

年度別重点

令和4年度	園内研修の充実、相互職場体験の質の向上
令和5年度	指導計画・スタートカリキュラムの改善、園同士の情報交換等の体制構築 園・小学校の職員の合同研修(幼小連携の意識を高める)
令和6年度	指導計画・スタートカリキュラムの実践、架け橋期の保育・教育の質の向上

4 令和4年度の実体

目 的
小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。 園訪問を通して園内研究充実と保育の質の向上を図る。

実施内容及び実施状況(中間)
(1)「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」 ・教育総務課指導主事と子育て応援課が連携し円滑な就学に向けた事業（年中児相談等）を実施 ・教育総務課に幼児教育アドバイザーを配置し、子育て応援課と連携し研修事業、公開保育、保育実践研究等を実施 ・教育総務課による園訪問（9／2～9／30 5園） 目的:特別な教育的配慮の必要な園児に対し、実際の保育場面での行動観察を通して、適正な就学と就学後の継続した支援の推進に資する。 参加者：専門検査員、園長・主任・担任、小学校特別支援教育コーディネーター等 ・幼児通級教室の実施 ・市教育支援アドバイザーとの連携による特別な支援を要する子どもへの支援 ○今年度から幼児教育アドバイザーが教育総務課に配置したことで、園と小学校の連携における課題の洗い出しができた。 ●各課の強みを生かした連携推進の在り方について検討・改善
(2)「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」 ①園訪問により各園の実態や課題を把握し、教育・保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもつことで、各園の教育及び保育の質の向上を図る。 ②公立園の園長会議や主任会議に参加し、教育課程や園内研究研修、幼保小連携等について助言するとともに、事業の共通実践事項の周知を図る。また、園長や主任からの情報や意見を吸い上げ、園訪問や市主催研修等に生かす。 ・市内就学前施設への巡回訪問と要請訪問（全施設月1回以上） ・園内研修、公開保育、個別相談（13施設対象） ・園長会議への参加(月1回)、主任会議(随時) ◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（潟上市）※3月末見込で記入

⑥派遣目標 計 19施設／全19施設 97回	
回	・保育所：公立1園（18回）
数	・幼保連携型認定こども園：公立4園（78回） ・幼稚園型認定こども園：私立1園（2回） ・その他の施設：小規模保育所2か所（4回）、認可外保育施設4か所（8回）、事業所内保育施設1か所（2回） ・小学校：6校（16回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5園（45回））
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（15回））
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5園（119回））
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6園（24回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、13園（132回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5園（5回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校（10回））

理由	・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援をし、保育の質の向上を図るため。 ・就学前教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小学校の教職員が互いに理解を深め、幼保小連携の推進を図るため。
----	---

- 園や保育者の課題や悩みを一緒に考えたり、よい点を価値付けてアドバイスしたりすることで、保育や園内研究に主体的に取り組む姿が見られるようになってきている。
- 園内研究の在り方や指導計画の作成、教育課程に関わる内容について、的確なアドバイスができるよう、連絡協議会や県主催研修会等を活用して研修していきたい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

① 市主催保育実践研修会の開催

ア 保育実践研修会①（課題別研修）

目的：こどもの人権の理解や専門職としての責務を再確認し、保育の質の向上を図る。

日時：令和4年5月20日（金）

参加者：保育従事者 15名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話「子どもの人権と保育」

講師：秋田県教育庁幼保推進課指導班 副主幹（兼）班長 井上英樹 氏

<参加者アンケート結果>

満足	やや満足	やや不満	不満
14	1	0	0

<参加者の感想>

- ・子どもの人権を尊重し、一人一人の育ちに応じた関わりや環境づくりをしていきたい。また、一人の保育者ではなく、園全体で話しながら発達過程に応じた保育に取り組めるようにしていきたい。
- 人権について法令の知識だけではなく、具体的な事例も交えて分かりやすく解説していただいたことにより、参加者からは、個人の意識として、また、チームとしてアンテナを高くして保育にあたる重要性を感じたとの感想が多く出された。
- 講話の中で紹介のあった資料を活用し、全職員で子どもの人権について確認した園もあった。園外研修が園内研修に生かされ、一部の職員だけでなく全職員の研修になったことは有意義であった。
- △研修内容が好評だったため、次年度も同様の研修があってもよいとの声が聞かれた。市主催の研修として検討するとともに、各園で年度初めに全職員が子どもの人権について確認する機会がもてるよう、年間の研修計画に位置付ける等の提案を管理職に働きかけていきたい。

イ 保育実践研修会②（保育補助研修）

目的：保育補助者として子どもの発達理解と内面理解を深め、保育に向かう基本的態度について確認し、各職員の資質の向上を図る。

日時：令和4年6月27日（月）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：公立園の園長または主任5名

保育補助従事者18名

内容：講話・演習「保育の中で大切にしたいこと」

講師：聖霊女子短期大学 講師 石井美和子 氏

<参加者アンケート結果>

満足	やや満足	やや不満	不満
20	3	0	0

<参加者の感想>

- ・子どもやその背景にあるものを考慮しつつ、今その子どもが何を考えているのか、何を必要としているのか、何がしたいのかアンテナを張り巡らせて、保育に関わっていききたい。(保育補助職員)
- ・園には、様々な職種立場の職員がいるが、子どもを前にすればだれもみんな同じなので、今日の研修を踏まえ、「子どもの姿をよく見る、子どもとよく触れ合う、子どもがどういう気持ちなのか知ろうと心がける。」を園内で共有し、チームで頑張っていきたいと思う。(管理職)
- 保育補助職員が、子ども理解や子どもへの自身の関わり方について見直す研修となった。
- 管理職にも参加してもらうことで、園運営やチームとしての職員体制について考える機会となった。
- △保育補助研修は、今後も継続して実施し多くの職員を参加させたいとの管理職の要望が多かった。保育補助職員はもとより、保育補助以外の職員（看護師等）も含めた研修についても、今後検討していきたい。

ウ 保育実践研修会③（ミドルリーダー研修）

目的：園運営の中核的な役割を果たすことが期待されるミドルリーダーとして、その職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図る。

日時：令和4年7月13日（水）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：公立園の園長または主任5名

保育従事者12名

内容：講話・演習「ミドルリーダーの役割」

講師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 佐藤玲子 氏



<参加者アンケート結果>

満足	やや満足	やや不満	不満
17	0	0	0

<参加者の感想>

- ・後輩にアドバイスをしていくのはもちろんだが、考えを聞いて認め、任せてみることも大切だと思った。その上でうまくいかなかったところと一緒に考えていくということを心がけていきたい。また、園のつなぎ役として今日の研修での学びを生かしていきたい。(ミドルリーダー)
- ・組織として得意なことに責任をもち、自信をつけながら仕事をしていくことができればと思った。園運営の一助として、さまざまな考え・アイディアを引き出せるようにして

いきたい。（管理職）

○講話と演習を通して、参加者がミドルリーダーの役割について理解・自覚し、参加者同志の有益な情報交換をすることができた。

◇園長、ミドルリーダーそれぞれの立場から園運営への参画や組織について考える機会になった。今後も研修内容に応じて管理職の参加も考えていきたい。

△研修参加者から、小規模保育施設職員の研修や小規模保育施設と連携施設との連携の在り方について、声が寄せられた。年度当初計画していた研修会はア～ウであるが、エの保育実践研修会④を12月に実施した。また、オの保育実践研修会⑤「特別支援教育管理職研修」を2月に実施し、次年度の特別支援教育の在り方について研修を深めた。

エ 保育実践研修会④（未満児保育研修）

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

期日：令和4年12月5日（月）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：公立園の園長または主任 12名

保育従事者 8名

内容：講話・演習「0・1・2歳児の育ちの理解と保育者の援助」

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部真理 氏

<参加者アンケート結果>

満足	やや満足	やや不満	不満
20	0	0	0

<参加者の感想>

- ・子どもの姿をじっくりと見て、周りの保育者と共有しながら、「どこに楽しさを感じているのか。何が育っているのか。」を深く読み取り、そこから手立てを考えていきたい。
- ・日々の子どもの様子を基に「読み取りの演習、経験や学び、この先の育ち」を考える研修が大変有効であることを感じた。繰り返し研修していくことで、気付きが増え、子どもの育ちに還元されるのではないかと思う。（管理職）

○年度当初の計画にはなかったが、保育の原点を再確認する研修であり、管理職にも保育者にも有益であった。

オ 保育実践研修会⑤（特別支援教育管理職研修）

目的：園全体で取り組む特別支援教育について、管理職の理解を深める。

期日：令和5年2月13日（月）

会場：昭和こども園 2階会議室

参加者：園長・主任 12名

内容：講話・演習「園全体で取り組む特別支援教育」

講師：認定こども園 海山学園 追分幼稚園 園長 山本新平 氏

※保育実践研修会全般の成果と課題について

○今年度実施した研修会は、参加者が熱心に研修する場面が見られ、概ね好評価を得た。研修内容によっては、受講した研修を生かして、園内の全職員で研修をした園もあった。管理職の参加を促したことも、園運営にプラスになっている。

○研修内容について、園の管理職・保育士の要望を聞くとともに、園の課題を洗い出し、その解決につながる研修が実施できた。

●新型コロナウイルス感染防止の観点から、時間や参加者を絞っての研修となった。状況を

見ながら、参加人数や研修方法についても検討していきたい。

△研修に参加した職員からは、継続してほしい研修や今後参加してみたい内容について様々な要望があった。職員の声や園長会議での意見を集約するとともに、園訪問や指導主事訪問等で課題となった点について精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。また、園外研修ではなく、各園での園内研修として実施した方がよいものについては、次年度の研修計画に盛り込むよう管理職に働きかけをしていきたい。

②公開保育研究会、公開保育の開催

ア 公開保育研究会

期日：10月21日

会場：天王こども園 市民センター「かたりあん」

参加者：5名

内容：保育参観、全体会（園内研究概要説明 保育の振り返り）、指導助言

指導者：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 高橋亜希子 氏
幼保指導員 阿部 真理 氏

イ 公開保育

(i) 期日：6月23日

会場：追分保育園

参加者：10名

内容：保育参観、協議

(ii) 期日：10月7日

会場：出戸こども園

参加者：7名

内容：保育参観、協議

(iii) 期日：11月8日

会場：昭和こども園

参加者：9名

○参観者と公開園職員で、環境構成や保育者の援助、
職員の協力体制等について活発な意見交換がなされた。

●連携する小学校の職員の参観が少なく、課題である。

保育参観や授業参観を通して子どもの育ちや学びを語り合えるように、働きかけを工夫していきたい。



子どもの姿や環境構成、保育者の援助等について話し合いが行われました。

③保育実践研究「体力向上事業」の実施

ア 基幹園での実践

ねらい：様々な動きを通して、主体的・意欲的に遊ぶ子どもたちの健康な心と体づくりをめざす。

内容：リズムに合わせて、全身を使った様々な動きを楽しむ。

発達に合わせた動きを遊びに取り入れ、バランス感覚を養う。

心や体を十分に動かして遊ぶ取組を家庭に発信し、調和のとれた発達の大切さを知らせていく。

講師：YELLOW BLACK ダンススタジオ秋田 石井 勲 氏

活動日程：令和4年6月～令和5年1月まで月2回講師による指導を行う。

対象：3、4、5歳児

未満児クラスの活動は、保育参観時に行う予定

他園の職員の参観：7月12日、9月29日

公開保育：11月15日



イ 基幹園以外の公立4園での実践

各園の実態に応じ、園の方針や取組方法を計画し、指導計画に位置付けて実践する。

体力向上事業「リズムに合わせて、ほっぴ ステップ じゃんぷ」

ウ 体力向上担当者会議の実施

ねらい：各園の体力向上担当者が自園の実践を持ち寄り、情報交換をしたり成果や課題について検討したりすることで、市内の子どもの体力向上と職員が広域的に学び合う体制を構築する。

期日：5月30日、8月25日、10月25日、12月13日、1月13日

○昨年度の体力向上事業は、基幹園のみの実践に留まり、市全体での取組とはならなかった。この課題を踏まえ、今年度は基幹園の取組を随時他園に公開したり、各園の担当者会議を設けて情報共有したりする場を設定した。ねらいを共通理解し、基幹園の取組を参考に各園で工夫しながら実践をしている。

○各園の担当者は、園での推進役を果たしている。また、担当者会議を設定したことで、市の事業運営の経験を積むことができた。

④小規模保育施設と公立園・幼稚園との連携

ア 小規模園に係る現状や要望の把握

- ・実践保育研修会③の参加者アンケートに「小規模園同士の情報交換の場が欲しい。」「小規模園と連携園の連携を図りたい。」という意見が複数寄せられた。
- ・子育て応援課に情報提供するとともに、園長会議において小規模保育施設との連携の現状について公立園長から聞き取りを行った。
- ・小規模保育施設の園長会は組織としてなかったことから、子育て応援課と連携し小規模保育施設連絡会を立ち上げる。

イ 小規模保育施設連絡会の開催 8月23日

- ・小規模保育施設の園長等と子育て応援課主任、幼児教育アドバイザーで意見交換や情報共有をする。
- ・連携園との関わりについて、実態把握や今後のスケジュールを確認する。

ウ 就園連携合同研修会の実施 10月31日

- ・小規模保育施設と連携園で、今年度の引継ぎ会の実施日を決めたり今後の連携計画を作成したりする。

エ 就園連携引継ぎの実施 2月

- ・小規模保育施設と各連携園において、引継ぎ会を実施する。

○これまで小規模保育施設の現状把握や公立園等との連携はあまり行われていなかった。今年度は、小規模保育施設の連絡会を立ち上げるとともに、小規模保育施設と公立園等との連携が図られるよう、就園連携合同研修会を実施した。

●小規模保育施設の職員は、意欲はあっても運営上の理由から研修会や公開保育になかなか参加できない状況がある。現状を把握し、少しでも改善できる方策を共に考えていきたい。

△今年度、子育て応援課と教育総務課が連携して、小規模保育施設連絡会や就園連携合同研修

会を立ち上げることができた。今後も両課でサポートはするものの、就園連携合同研修会については、運営のリーダーシップを連携園の管理職に担ってもらう方向で進めていきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

期日：7月27日（水）

会場：潟上市役所 4階大会議室

参加者：小学校の管理職と1年生担任等

園の園長または主任と5歳児担任等

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

地区ごとのグループ協議「育てたい子どもの姿の共有」と情報交換

講師：秋田県教育庁幼保推進課 副主幹（兼）班長 井上英樹 氏

②就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

ア 相互職場体験

追分保育園（7月29日） 天王こども園（8月2日、8月8日）

昭和こども園（8月8日） 若竹幼児教育センター（8月22日）

天王小学校（8月30日） 追分小学校（9月8日） 出戸小学校（9月22日）

東湖小学校（11月18日） 飯田川小学校（11月18日）

大豊小学校（12月6日） 出戸こども園（12月22日）

イ 情報交換会

東湖小学校・天王こども園（6月1日）

出戸小学校・出戸こども園（6月2日）

大豊小学校・昭和こども園（6月9日）

飯田川小学校・若竹幼児教育センター（6月21日）

天王小学校・天王こども園（7月14日）

出戸小学校・出戸こども園（2月14日）

東湖小学校・天王こども園（2月17日）

大豊小学校・昭和こども園（2月22日）

飯田川小学校・若竹幼児教育センター（2月24日）

天王小学校・天王こども園（3月3日）

追分小学校・追分保育園（3月上旬）



相互職場体験。小学校職員の学校紹介に、子どもたちは釘付けです。

③特別支援地区別連絡会 教育支援アドバイザー

天王南中学区（8月19日）

羽城中学区（8月22日）

天王中学区（8月23日）

各小・中（管理職1名・特別支援コーディネーター1名）

各園長が出席し、特別な支援を要する子どもについて情報を共有する。

④幼児通級教室（年中児親子相談会サポート事業）

市教育支援アドバイザーが園を訪問し、1回30分程度の活動を行う。

4園（13名） 47回実施

⑤幼保小連携だより「かたっこすまいる」の発行(月1回)

○研修会や相互職場体験の授業参観や保育参観、話し合いを通して、小学校教育と就学前教育の特徴や相違点、指導方法について、職員の理解が深まってきている。

○就学前から、特別な支援を要する子どもについて情報を共有し合うことで、小学校、中学校への進学の際の、子ども・保護者の不安を軽減するとともに、必要な支援が途切れることのないような体制ができている。

●地区ごとに連携の組織体制は整ってはいるものの、特に、小学校において取組内容や職員の意識に温度差が見られる。また、公開保育への小学校職員の参加や小学校の授業研究会への園職員の参加が少ないことも課題である。

●幼保小中間での協議の場が、特別な支援を要する子どもの情報交換に特化している所もある。より、各園・校での子どもの姿を見合ったり、話し合ったりする機会・時間が必要。

△研修会や相互職場体験、保育参観、授業参観等、様々な機会を通じて職員同士が子どもの学びや育ちについて理解を深めるとともに、小学校教育への円滑な接続のための指導計画やスタートカリキュラムの改善が図られるよう、継続した働きかけをしていきたい。

(5)「県との連携体制の充実」

①県主催協議会への参加

- ・アドバイザー連絡協議会(4月22日)(6月24日)(8月25日)(10月25日)
(1月24日)

○事例検討による演習は、保育者への具体的な助言や園内研修・園への課題等の支援方法を研修する有意義な機会となっている。

○他市アドバイザーとの話し合いは、本市の取組の改善を図る上での参考となったり、自身の園への関わり方のヒントになったりしている。

△各地区の状況によってアドバイザーの関わり方は様々である。各地区でアドバイザーが園や保育者にどのような関わり方をしているのか、どんな研修会を実施しているのか等、取組状況について情報交換の場があってもよいと感じている。

②県主催研修会、文部科学省主催研修会への参加

- ・園長等運営管理協議会(4月27日)
- ・教頭・主任等研修会(5月10日)
- ・就学前教育理解推進研究協議会(6月14日)
- ・中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(6月22日)
- ・「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」意見交換会第1回及び幼児教育アドバイザー等を対象とした意見交換会第1回(6月30日)
- ・中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(7月15日)
- ・5年経験者研修Ⅱ(9月15日)
- ・「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」意見交換会第2回及び幼児教育アドバイザー等を対象とした意見交換会第2回(10月28日)
- ・教頭・主任等研修会Ⅱ(11月2日)
- ・就学前教育推進協議会(11月25日)
- ・中央セミナー(12月15日)

○教育・保育内容の理解を深めたり、園訪問のアドバイスの参考にしたりすることができた。
△可能であれば、他市が主催している研修会にも参加してみたい。

③県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

- ・追分保育園（6月23日）
- ・出戸こども園（10月7日）
- ・天王こども園（10月21日）
- ・昭和こども園（11月8日）

○毎回、各園の保育や公開研究会の課題や改善点を丁寧に指導していただいている。園の課題解決や公開研究会の運営、園への助言に生かすことができている。

○園への関わり方や支援の仕方、研修会の進め方の他、多岐にわたる疑問や悩みについても指導・助言していただけることは、大変ありがたい。

④県指導主事計画訪問・要請訪問への同行

- ・天王こども園（6月29日）
- ・出戸こども園（7月14日）
- ・追分保育園（7月28日）
- ・昭和こども園（9月1日）
- ・若竹幼児教育センター（11月9日）

○計画訪問・要請訪問での園・保育者への指導・助言から、保育の見方や園の課題、課題解決に向けての支援の方法を学ぶことができた。園や保育者のよいところや課題を共有し、今後の園訪問に生かしていきたい。

⑤他市アドバイザーに学ぶ研修会

- ・若竹幼児教育センター（7月29日）
- ・仙北市角館こども園参観（9月12日）
- ・横手市にしの杜参観保育園（9月16日）

○各地区のアドバイザーの実践を参観したり、これまでの経験も含めて参考になる意見や具体的実践を聞いたりすることができた。アドバイザーの役割を再認識するとともに園訪問等に生かすことができた。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和4年度)の成果と課題

○園内研修の充実（幼児教育アドバイザーの助言等による）

○相互職場体験の質の向上（園・小の職員が10の姿という共通の視点で子どもを見て、振り返りができた）

○体力向上事業（基幹園での実践・公開、市で学び合う体制の構築、各園での実践）

○小規模保育施設と公立園等との連携体制の構築

○各小学校区の幼小連携の取組の実態、課題の把握

●教育課程の改善・5歳児の指導計画・スタートカリキュラムの改善（園・小で共同して作成していく必要）、小学校の職員の意識改革（0歳児～18歳までの学びの連続性・園と小学校の違いについての理解促進）

●研修リーダーの育成

●保育実践研修会の内容検討（多くの保育士が参加できる環境作り、研修内容を各園で生かす体制づくり、保育補助・ミドルリーダー育成・特別支援等様々なニーズに合った研修の実施）

●保育記録と指導計画・評価

